

事業報告書

事業報告書

令和6年度（令和6年4月1日から 令和7年3月31日まで）

（1）農作物共済関係

（引受）

年 産	共済目的	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) + (B)
令和6年産	水 稲	人 9,326	ha a 2,258,839	円 18,814,331,774	円 10,031,628	円	円
	前年度比	△ 913	△ 175,068	△ 1,964,352,710	△ 1,519,924		
	麦	278	181,031	552,418,238	19,428,165		
	計	延 9,604 実 9,372	2,439,870	19,366,750,012	29,459,793	21,701,689	51,161,482
令和7年産	麦	262	192,136	545,826,051	7,540,350		
	前年度比	△ 16	11,105	△ 6,592,187	△ 11,887,815		

（引受）

水 稲

引受面積は、収入保険への移行や水田の改廃、転作の深掘りなどにより、前年に比べ1,751ha減少し22,588haとなった。引受戸数は、収入保険への移行や高齢者の離農、担い手等への面積集積が進み913戸減少し9,326戸となった。

麦

令和7年産麦の引受面積は、作付面積の大きい農業者が収入保険から移行したことにより前年産より111ha増加し1,921haとなり、引受戸数は収入保険への移行や担い手等への面積集積が進み16戸減少し262戸となった。

(被 害)

共済目的	被 害 組合員数	共済金	共済金 共済金額
水稻	人 172	円 45,923,337	% 0.2
前年度比	△ 96	△ 43,670,299	△ 0.2
麦	116	32,307,571	5.8
前年度比	86	28,573,675	5.1
計	延 288	78,230,908	0.4

(支 払)

共済目的	支払月日	実支払共済金	共 濟 金 支 払 財 源					実支払共済金 共済金
			保険金	手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	
水稻	令和6年12月 5日	円 45,923,337	円	円 19,892,287	円	円	円 0	% 100.0
	令和6年12月27日							
	令和7年 3月31日							
麦	令和6年 8月 5日 令和6年12月 5日	32,307,571	31,269,195				0	100.0
計		78,230,908	0	51,161,482	27,069,426	0	0	100.0

(被 害 ・ 作 柄)

水 稲

5月は気温、日射量は平年並みで推移したが、5月中下旬の強風による植傷みや5月下旬の多雨により水深が深く、田水温が低くなつたことから活着及び初期生育はやや遅くなつた。コシヒカリの出穂期は平年並みで、出穂後20日間の平均気温は28.3℃（近年差+0.6℃（令和5年を除く））とやや高くなり、成熟期は平年より3日早い9月7日となつた。北陸農政局による作況指数（農家篩目ベース：1.90mm）は99の「平年並み」で、収量は515kg/10a（平年519kg/10a）となつた。

被害状況では、8月中旬以降の大雨の影響により稲が倒伏する被害が発生した。また、大雨による用水路等の損壊及び高温・少雨の影響による干害が発生した。中山間地域においてはイノシシ、サル及びカモシカによる踏み荒らしや食害による被害が発生した。一部の地域では、斑点米カメムシ類の吸汁被害により等級の格下げがみられた。

(被 害)

麦

播種後の10月以降の降雨により、排水条件の悪い圃場を中心に土壤湿潤害が発生し生育不良となつた。また、5月のフェーンによる早期の枯れ上がりの影響で登熟が不良となり、細麦傾向となつた。一部の圃場では、能登半島地震の影響による陥没及び液状化により埋没する被害が発生した。

(損害防止)

1. 水稻の加入者に対して、事故の未然防止又は軽減を図るため必要な薬剤等の購入経費の一部として18,067,148円を交付した。
2. 鳥獣害防止対策支援事業として、被害の未然防止対策を行つた組合員等（76件）に対して、6,142,000円を交付した。
3. 本県水稻の主要病害虫である、いもち病、紋枯病、ニカメイチュウ、ウンカ類、カメムシ類等による災害の未然防止を図るために、ニカメイガ予察灯調査（15ヶ所）、病害虫定期定点（すくいとり等）調査（48ヶ所）を設置し、調査資料に基づく地域ごとの予報・情報等に協力した。

(2) 家畜共済関係

(引受)

項目区分		組合員数	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数		引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金	納入保険料	交付金	手持共済掛金
死亡 廃用 共済	搾乳牛	人 25	頭 1,565	頭 1,895	区分 一般	頭 1,702	% 86.4	千円 295,455	円 12,582,443	円	円	円
	育成乳牛 (子牛等)	20	380	650	一般 (30)	522 (17) △ 24 (0)	76.6	108,447	899,594			
	繁殖用雌牛	11	585	340	一般 変更	308 3	91.5	81,518	554,471			
	育成・肥育牛 (子牛等)	29	2,896	3,865	一般 (350)	3,702 (222) 49 (△ 115)	97.1	857,901	11,283,387			
	種豚	0	1,161	0	一般 変更	0 0	—	—	—			
	肉豚	4	18,717	6,405	6,649		103.8	83,507	25,763			
	種雄牛	0	0	0	0		—	—	—			
	計	89	25,304	13,155	一般 変更	12,883 -152	96.8	1,426,828	25,345,658	0	26,389,050	51,734,708
疾病 傷害 共済	乳用牛	28	1,945	1,935	1,882		97.3	39,929	11,993,068			
	肉用牛	31	3,481	2,810	2,735		97.3	22,508	6,981,997			
	種豚	0	1,161	0	0		—	—	—			
	種雄牛	0	0	0	0		—	—	—			
	計	59	6,587	4,745	4,617		97.3	62,437	18,975,065	0	18,962,313	37,937,378
合計		148	31,891	17,900	17,500		97.8	1,489,265	44,320,723	0	45,351,363	89,672,086

(引受)

死亡廃用共済では、令和5年度引受分の期末調整（変更）を行った。令和6年度期首の引受（一般）は死亡廃用共済では、計画に対し搾乳牛は193頭の減、育成乳牛は128頭の減、繁殖用雌牛は32頭の減、育成・肥育牛は163頭の減、肉豚は244頭の増となった。疾病傷害共済では、計画に対し乳用牛は53頭の減、肉用牛75頭の減となった。

(事 故)

死亡廃用共済

項目 区分	死亡頭數	廃用頭數	総頭數	支払共済金
搾乳牛	123	9	132	21,784,677
育成乳牛 (子牛等)	26 (18)	1	27	2,354,802
繁殖用雌牛	3	3	6	1,042,595
育成・肥育牛 (子牛等)	106 (71)	12	118	17,145,629
種豚	0	0	0	0
肉豚	0	0	0	0
種雄牛	0	0	0	0
計	258	25	283	42,327,703

疾病傷害共済

項目 区分	件数	支払共済金
乳用牛	2,279	27,214,356
肉用牛	1,959	15,626,983
種豚	0	0
種雄牛	0	0
計	4,238	42,841,339

(事 故)

死廃事故

搾乳牛で132頭（前年対比39頭の減）、育成乳牛で27頭（前年対比7頭の増）、繁殖用雌牛で6頭（前年対比2頭の減）、育成・肥育牛で118頭（前年対比12頭の減）となり合計で283頭（前年対比46頭の減）の事故が発生した。支払共済金は、令和5年度引受の期末調整による支払共済金の変更分を含め4,233万円（前年対比1,000万円の減）となった。肉豚については、事故除外方式での加入のため、対象となる事故は発生しなかった。

病傷事故

乳用牛で2,279件（前年対比30件の増）、肉用牛1,959件（前年対比66件の減）となり、合計で4,238件（前年対比36件の減）となった。支払共済金は4,284万円（前年対比369万円の減）となった。

(家畜診療所)

獣医職員数	管 内		診 療 件 数		そ の 他	
	有資格頭数	加入頭数	共済事故	事 故 外	予防接種	人工授精
人 1	頭 5,426	頭 4,617	件 995	件 744	頭 169	頭 27

家畜診療所では、通常の診療業務や人工授精のほか、伝染病予防注射を実施した。

(3) 果樹共済関係

(引受)

① 収穫共済

年度	果樹区分	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金(A)	交付金又は納入保険料(B)	手持共済掛金(A) + (B)
令和5年度	りんご	70	a 2,530	82,440,000	2,809,349	△ 1,140,345	2,821,918
	ぶどう	1	20	1,550,000	11,787		
	なし	69	1,801	62,860,000	1,067,373		
	かき	27	798	9,620,000	73,754		
	計	167	5,149	156,470,000	3,962,263		
令和6年度	りんご	62	2,305	85,990,000	3,856,781		
	ぶどう	1	19	1,450,000	12,616		
	なし	66	1,844	64,800,000	953,755		
	かき	26	753	9,270,000	75,590		
	計	155	4,921	161,510,000	4,898,742	△ 1,976,922	2,921,820
前年度比		△ 12	△ 228	5,040,000	936,479	△ 836,577	99,902

② 樹体共済

年度	果樹区分	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金(A)	交付金又は納入保険料(B)	手持共済掛金(A) + (B)
令和5年度	りんご	46	a 1,607	292,150,000	599,467	△ 630,648	1,382,789
	なし	41	1,311	113,910,000	149,145		
	かき	10	294	8,890,000	3,529		
	計	97	3,212	414,950,000	752,141		
令和6年度	りんご	46	1,581	353,430,000	734,766		
	なし	39	1,192	107,390,000	144,827		
	かき	10	296	8,960,000	3,355		
	計	95	3,069	469,780,000	882,948	748,444	1,631,392
	前年度比	△ 2	△ 143	54,830,000	130,807	117,796	248,603

(引受)

収穫共済

引受面積は、りんごは昨年産に対して2.3ha減の23.1ha、ぶどうは0.2ha、なしは0.4ha増の18.4ha、かきは0.5ha減の7.5haとなった。りんご、なし、かきではいずれも収穫保険への移行もしくは廃業により加入が減少したが、なしの結果樹面積増加と、りんご、なしにおいて近年甚大な被害が少なく低被害率で推移していることによる標準収穫量の上昇に伴い共済金額は増加した。これによって収穫共済の共済金額は1億6,151万円となり、昨年産より504万円増加した。

(引受)

樹体共済

引受面積は、りんごは昨年度に対して0.3ha減の15.8ha、なしは1.2ha減の11.9ha、かきは3.0haとなった。りんご、なしではいずれも新規加入があつた一方で、廃業もしくは加入継続取り止めにより加入は減少したが、りんごにおいては収穫共済と同様に共済金額が増加したことで、樹体共済の共済金額は4億6,978万円となり、昨年度より5,483万円増加した。

(被害)

果樹区分	被害組合員数	共済金	共済金 共済金額	
			円	%
収穫共済	りんご	人3	200,500	0.2
	ぶどう	—	—	—
	なし	4	312,000	0.5
	かき	1	165,200	1.7
	計	8	677,700	0.4
樹体共済	りんご	9	2,387,299	0.8
	なし	2	810,697	0.7
	かき	—	—	—
	計	11	3,197,996	0.8
合計		19	3,875,696	

(支払)

果樹区分	支払月日	実支払共済金	共済金				支払財源	実支払共済金 共済金	
			保険金	手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額			
収穫共済	りんご	令和7年2月17日	円200,500	円1,309,329	円	円	円0	円0	%100.0
	ぶどう	—	—	—	—	—	—	—	—
	なし	令和6年12月25日	312,000	1,068,523	—	—	0	0	100.0
	かき	令和7年2月17日	165,200	115,055	—	—	0	0	100.0
	計		677,700	2,492,907	—	—	0	0	100.0
樹体共済	りんご	令和6年7月16日	2,387,299	1,135,528	—	—	0	0	100.0
	なし	令和6年7月16日	810,697	240,782	—	—	0	0	100.0
	かき	—	—	6,479	—	—	—	—	—
	計		3,197,996	1,382,789	—	—	0	0	100.0
合計		3,875,696	0	3,875,696	0	0	0	0	100.0

(被害)

収穫共済

令和6年8月上旬頃から、一部のなし園地でカイガラムシによる果実の吸汁被害やナシヒメンシクイによる果実の食害が発生し、8月下旬頃から、一部のりんご園地で輪紋病が発生した。また、9月22日の強風の影響でりんごで落果、傷果の被害が発生した。りんごの生育期間を通してカメムシが多く飛来した影響で、果実の吸汁被害が発生した。一部のかき園地では、10月上旬頃から炭疽病が発生した。

(被害)

樹体共済

令和5年7月から長期間続いた高温の影響で樹勢が弱まり、活発化した木材腐朽菌によつてりんご、なしで樹体が枯死する被害が発生した。また、12月下旬の積雪の影響および令和6年2月15日の強風の影響により、りんごで主枝・主幹の折損被害が発生した。

(損害防止)

虫害に係る発生予察として、りんごでチャバネアオカメムシ、キンモンホソガ等の6地点、かきでフジコナカイガラムシ1地点の調査を実施した。

(4) 畑作物共済関係

(引受)

年度	項目 畑作物区分	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) + (B)
令和6年度	大豆	人 253	a 187,067	円 456,849,790	円 17,687,756		
	そば	45	22,085	44,489,817	2,294,641		
	うち 地域インデックス方式	7	6,068	5,423,440	132,182		
	計	延 298 実 293	209,151	501,339,607	19,982,397	13,234,287	33,216,684

(被害)

項目 畑作物区分	被害組合員数	共済金	共済金 共済金額	
			人	円
大豆	172	87,209,083	19.1	
そば	29	13,970,229	35.8	
計	延 201 実 200	101,179,312	20.4	

※畑作物区分そばのうち、令和6年産の地域インデックス方式は共済金が未確定のため実績に含まない。

(支払)

項目 畑作物区分	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
			保険金	手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	
大豆	令和7年3月28日	円 87,209,083	円	29,248,618			円	100.0
				3,870,435				
そば	令和7年3月28日	13,970,229						100.0
計		101,179,312	57,307,030	33,119,053	0	10,696,503	56,726	100.0

(引受)

(損害防止)

大豆は、作付面積4,550ha(農林水産省公表)に対し引受面積は41.1%の1,871haで、作付面積の減少及び収入保険への移行により前年産に対し約274ha減少した。共済金額は4億5,684万円となり、前年産より約4,347万円減少した。そばは、作付面積592ha(農林水産省公表)に対し引受面積は37.3%の221haで、前年産に対し約3ha減少した。共済金額は4,449万円となり、前年産より約156万円増加した。

(被害)

大豆は、播種期のまとまった降雨の影響により土壤湿潤害が発生し、生育不良となった。また、7月中旬から7月下旬の高温及び降雨の影響で葉焼病の菌が広がり葉に病斑が発生した。9月下旬まで高温で推移したことにより、植物体の消耗が多くなり小粒傾向となった。一部の圃場では、青立ち(莢先熟)やイノシシによる踏み倒し・食害が発生した。そばは、播種期から発芽期の断続的な降雨の影響により土壤湿潤害が発生し、生育不良となった。また9月中旬以降の大雨・強風の影響により、倒伏・落花の被害が発生した。一部の圃場では、イノシシによる踏み倒し被害が発生した。

(5) 園芸施設共済関係

(引受)

項目 施設区分	組合員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) + (B)
ガラス室I類	—	—	—	—	—	—	—	—
ガラス室II類	31	51	12,927	20,209	18,359	139,993	83,544	223,537
プラスチックハウスI類	—	—	—	—	—	—	—	—
プラスチックハウスII類	1,059	4,253	751,272	395,569	351,614	18,517,514	7,185,061	25,702,575
プラスチックハウスIII類	2	5	1,485	759	720	73,753	47,421	121,174
プラスチックハウスIV類A	27	46	14,340	18,028	15,097	453,898	191,954	645,852
プラスチックハウスIV類B	35	67	38,788	68,909	57,810	922,774	411,097	1,333,871
プラスチックハウスV類	7	8	2,465	2,392	1,990	33,141	28,292	61,433
プラスチックハウスVI類	5	16	9,497	3,769	3,161	115,457	56,415	171,872
プラスチックハウスVII類	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,166	4,446	830,774	509,635	448,751	20,256,530	8,003,784	28,260,314

(被害)

項目 施設区分	被　害			損害の額	共　済　金					共済金 共済金額
	組合員数	棟　数	附帯施設数		特定園芸施設	附帯施設	施設内農作物	撤去費用	復旧費用	
ガラス室I類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ガラス室II類	4	7	0	556,472	473,324	0	0	0	0	473,324 0.26
プラスチックハウスI類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
プラスチックハウスII類	85	109	10	8,658,527	6,021,869	435,166	0	0	177,014	6,634,049 0.19
プラスチックハウスIII類	2	5	0	85,028	10,576	0	59,559	0	0	70,135 —
プラスチックハウスIV類A	1	1	0	22,357	22,356	0	0	0	0	22,356 0.01
プラスチックハウスIV類B	1	1	1	35,750	0	35,750	0	0	0	35,750 0.01
プラスチックハウスV類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
プラスチックハウスVI類	1	2	0	13,433,074	10,746,458	0	0	0	0	10,746,458 34.00
プラスチックハウスVII類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	94	125	11	22,791,208	17,274,583	470,916	59,559	0	177,014	17,982,072 0.40

(支 払)

項目 年度区分	実支払共済金	共　済　金　支　払　財　源					実支払共済金 共　済　金
		保険金	手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	
当 年 度 分	17,746,201	7,848,991	9,897,210	0	0	0	100.0
過 年 度 分	235,871	93,629	142,242	0	0	0	100.0
合　計	17,982,072	7,942,620	10,039,452	0	0	0	100.0

(引受)

戸数加入率80%を目標に、年3回の加入推進月間を設け、育苗ハウスへの加入推進やニーズに合わせた加入コースの案内、リスク啓発のチラシ配付などを行い、前年度より103戸の増加（戸数加入率84.0%）となった。

(被害)

被害棟数としては風害が最も多く75棟（全体被害の60%）となったが、支払共済金としては雪害が全体支払共済金の約84%を占め、約1,500万円の支払いとなった。
過年度分の支払いとしては、令和5年10月の風害による復旧費用に係る支払いが約11万円、令和6年1月の地震に係る支払いが約12万円となった。

(6) 任意共済関係

① 建物共済

(引受)

加入棟数	共済金額	共済掛金		1棟当たり 平均共済 金額	任意保険料	保険手数料
		純共済掛金	賦課金			
棟 64,889	千円 1,031,838,580	円 508,449,760	円 331,728,186	千円 15,902	円 278,285,534	円 91,415,082

上記引受は、年度内満了短期月引受を含む。

項目 種類	加入棟数	共済金額	共済掛金		
			純共済掛金	賦課金	総額
総合共済	棟 6,962	千円 74,287,310	円 134,773,314	円 42,553,988	円 177,327,302
火災共済	57,927	957,551,270	373,676,446	289,174,198	662,850,644
計	64,889	1,031,838,580	508,449,760	331,728,186	840,177,946

任意保険割合	地震等部分	50.0 %
	地震等以外	30.0 %
保険手数料割合	総合共済	19.50 %
	火災共済	39.12 %

※保険手数料の割合は物件等毎に異なるため、平均の割合とした。

(事故)

事故棟数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)		任意保険金	被害率 (ロ) / (イ)
		火災	風水害等		
棟 839	千円 11,677,410	円 129,108,038	円 236,089,289	円 143,452,242	% 3.1

(原因別事故発生状況)

項目 事故の原因	事故棟数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	任意保険金	被害率 (ロ) / (イ)
			火災	風水害等	
失火	棟 18	千円 342,000	円 129,108,038	円 38,732,400	% 37.8
落雷	274	5,060,860	42,259,650	12,679,475	0.8
自然災害	448	4,979,300	185,731,763	89,611,031	3.7
その他	99	1,295,250	8,097,876	2,429,336	0.6
計	839	11,677,410	365,197,327	143,452,242	3.1

② 農機具共済

(引受)

項目 区分	加入台数	共済金額	共済掛金		1台当たり 平均共済金額
			純共済掛金	賦課金	
計	台 3,844	千円 13,597,090	円 47,678,237	円 19,323,777	円 3,537,225

(事故)

項目 区分	事故台数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)		被害率 (ロ) / (イ)
			純共済掛金	賦課金	
計	台 251	千円 1,319,900	円 43,776,010	円 0	% 3.3

③ 保管中農産物補償共済

(引受)

項目 区分	加入戸数	共済金額	共済掛金		保険料
			純共済掛金	賦課金	
水稲	戸 5	千円 7,000	円 29,050	円 12,450	円 30,914
大豆	0	0	0	0	0
計	5	7,000	29,050	12,450	30,914

(事故)

項目 区分	事故件数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)		被害率 (ロ) / (イ)
			純共済掛金	賦課金	
水稲	件 —	千円 —	円 —	円 —	% —
大豆	—	—	—	—	—
計	0	0	0	0	0.0

(引受)

建物共済は共済金額1兆318億3,858万円と前年度実績に対し351億6,548万円の減少となったが、近年多発する自然災害に備えた総合共済の推進に努めたことから、総合共済は前年度実績に対し410棟、共済金額で64億1,778万円の増加となった。

農機具共済は、共済金額135億9,709万円と前年度実績に対し、6億5,982万円の増加となった。

(事故)

建物共済の事故については839棟、支払共済金が3億6,519万円となり、前年度に対し棟数は543棟減となり、支払共済金は1億9,945万円の減となった。原因別では、自然災害が448棟と最も多くなったが、前年より247棟の減となった。

農機具共済の事故については251台で、支払共済金は約4,377万円となった。前年度に対し台数で6台の増となり、支払共済金は1,517万円の増となった。